

潮

ぎし給へきと、なまさかしき人の聞ゆれば海づらもゆかしくて出給ふ。○中うみのおもてはうらうらとなきわたりて、行るもしらぬに。○下略

〔源平盛衰記七〕成親卿流罪事

備前國阿江ノ浦ヨリ内海ヲ通テ兒島ト云所ニ著給フ、

〔新撰字鏡水〕潮達驕反、平、淖也、志保彌豆。

〔倭名類聚抄水泉〕潮 四聲字苑云海水朝夕來去波涌也直遙反又作淖和名字之保。周處風土記云海神

上朝於天、鱸鯨迎送海神、出入於穴、令水進退爲潮、又抱朴子云、天河與地河海水相搏擊、五水相盪激涌而成潮、

〔箋注倭名類聚抄水一土〕說文淖从水朝省、玉篇淖潮同上、于之襄、見齊明紀御歌、及後撰集仁德紀海

潮、宣化紀海水同訓、神代紀天武紀潮訓之保、新撰字鏡潮訓志保彌豆、按宇之保、蓋海鹽之急呼、云

海以別燒成鹽也。○中略 文選江賦注、引抱朴子云、朝者據朝來也、說文淖、水朝宗于海。○中略 隋書云、風

土記三卷、晉周處撰、唐書云、一卷、今無、傳本宣十二年左傳正義引、作鯨鯢海中大魚也、俗說出入穴、

卽爲潮水、太平御覽引、作俗說鯢一名海鱸、長數千里、穴居海底、入穴則水溢爲潮、出穴則水入潮退、

出入有節、故潮水有期、與此所引頗不同。○中略 抱朴子八卷、晉葛洪撰、所引文、今本無載、太平御覽引、

作天河從北極分爲兩頭、至於南極、其一經南斗中過、其一經東斗中過、兩河隨天轉入地下、過而與

下水相得、又與海水合、三水相蕩而天轉排之、故激涌而成潮水、此所引蓋節其文也、五水當作三水、

風土記抱朴子二條、舊及山田本尾張本、昌平本、曲直瀨本、下總本皆無、獨廣本有之、今附存、

〔類聚名義抄水五〕潮音朝、ウシホ、アサシホ、ホ、和同、潮汐、ユフシホ、ホ。

〔東雅地二〕海ウミ 潮ウシホをば古語にはシホといひしを倭名抄には潮字讀てウシホと云ひけ

り、シホと云ひし義不詳、ウシホといふは海潮なり、古事記には海鹽と云るしたりき、食鹽をもシ